

「熊野古道中辺路」踏破の旅 記録 2025.11.9~11

★一日目 11/9(日) 熊野速玉大社～大門坂～熊野那智大社

松岡さんの駐車場に8時集合。朝から雨。花の窟に立ち寄り、ウミガメ公園で昼食。相変わらず雨は降っているが、速玉大社に参拝し、樹齢1000年と言われている「ナギ」の巨木も見学した。当初予定していた「神倉神社」へは雨のため参拝中止になり、権現山の中腹の険しい崖の上に建てられた社を車窓から眺めた。

大門坂駐車場に13時20分到着。明日からお世話になる先達(修験僧侶)生熊青龍氏が出迎えてくださっていた。ご対面の挨拶後、大門坂に向かった。

関所跡からスタートし、俗界と靈界の境目の橋「振ヶ瀬橋」を渡る。石段と杉木立がずっと続く。樹齢800年を越す夫婦杉など大木が立ち並ぶ雨に濡れた大門坂。古道の雰囲気を味わいながら上って行く。その後、宿(美滝山荘)に寄ってから、自由散策に出かけた。熊野那智大社、青岸渡寺、那智の大滝をそれぞれのペースで散策。雨も大降りになってきて、大滝まで行く人は2名。遠くから三重の塔越しに大滝を眺め、早々に宿に戻ってきた。

4時45分から30分ほど熊野曼荼羅の絵解きをしていただいた。部屋に入ると正面に大きな曼荼羅図が掛けてあった。先ず、青龍氏のホラ貝から始まる。間近で聞くと、お腹に響く迫力があった。その後、みんなで「みどりちゃん」と呼ぶと、スラットした長身で美人の女性が比丘尼の白装束で、手には雉の羽のついた棒(おはねざし)を持って登場。雰囲気満点で曼荼羅の世界に誘われていった。先ず、右下の鳥居から白装束の二人連れとスタートし、振ヶ瀬橋を渡ると那智山の聖域に入り、大門坂を歩いて行き、那智の大滝を見て、中門を通って進むとそこにはたくさんのお寺やお宮が建てられていて、大勢の人がお詣りをしている。「みどりちゃん」がここでご詠歌を披露。いい声で心に沁みた。どんどん左上の妙法山に向かう。ここは極楽浄土の入り口。ここまで来ると最初の白装束の二人の姿は消える。亡者の熊野詣だったようだ。熊野は死と生の





交わる所。これを曼荼羅絵図で体現させてくれているのではないだろうか。

江戸時代にタイムスリップしたようで貴重な体験だった。この曼荼羅の世界を明日から歩けると思うと期待が膨らむ。絵解きのあと、青龍氏から手作りの「古道カンジキ」を配っていただいた。滑り止めになるそうで、明日使わせていただこうと思う。

★二日目 11/10（月）大雲取越 熊野那智大社～小口 15キロ 10時間

6時20分、宿（美滝山荘）を出発。昨日の雨は止んでくもり空。風はやや強い。狭くて急な階段を上って行くと10分ほどで青岸渡寺に着いた。大雲取越の登り口だ。ここで先達さんが阿弥陀寺に向かってホラ貝を吹く。今日歩く長い道のりを思い、気を引き締めた。手入れされている杉木立の間を進んでいくと、視界が開け、一面のススキが風になびいている。7時20分、那智高原休憩所に出た。その後、木立の間の石畳のアップダウンを繰り返しながら登立茶屋跡に8時20分到着。ここからは石畳の坂道と平坦な道が交互に続く。舟見茶屋跡に9時20分着。海が輝いている。ここで休憩。ここから色川辻に向かうが、この辺りは「亡者との出会い」と呼ばれ、亡くなつた肉親や友人に出会うことがあると言い伝えられているところだが、昨夜の曼荼羅の世界が重なつた。

地蔵茶屋跡に着いたのは11時20分。ここで昼食休憩。十数人の外国人たちも休憩している。この古道で出会うのはほとんど外国人だ。休憩所の奥に地蔵堂があり、32体の地蔵尊が安置されており旅人の安全を見守る存在として信仰されているそうだ。ホラ貝を吹いておまいりしてから出発。石倉峠と越前峠を越してひたすら歩く。緩やかな道になり一息つきながら歩いていくと、土屋文明の歌碑が



あった。平安時代の藤原定家の記述に対する返歌だそうだ。興味深い話だ。歴史を知つて歩くと、新しい発見がありより楽しめる。石がゴロゴロした道になってきた。石畳の急な下り坂で滑りやすい。だんだん足も疲れてきていたので充分注意してゆっくり歩いていった。3時30分、円座石（わろうだいし）に着いた。熊野の神々が集まって談笑したという伝説の石だが、今は苔が生えてただの大きな石だ。ここで記念写真を撮つて先を急いだ。小口自然の家に16時15分やっと着いた。よく歩いた一日だった。

★三日目 11/11 (火) 小雲取越 小口～請川 13.2キロ 7時間



小口自然の家を7時出発。快晴で肌寒いが気が引き締まって心地よい。元学校のグランド端の木々の紅葉が朝陽を受けて輝いている。小和瀬渡し場跡で軽くストレッチをして小雲取越スタート。小和瀬橋を渡り、民家の横を通り石段を上つて行くと尾切地蔵があった。今日も所々に歌碑があり、解説を聴いていると当時の生活の様子や人々の気持ちが伝わってきて、往時をしのびながら歩くことができた。ずっと階段が続く。

9時30分、桜茶屋跡に到着しここで休憩。現在も桜の木が数本残つていて、春には旅人の目を楽しませてくれるだろう。桜峠までまた急な上り坂。長塚

節、斎藤茂吉の歌碑もあった。アップダウンを繰り返し、賽の河原地蔵に着いたのが11時。賽の河原のお話を聴きながら、日常を離れた異世界にいるような感じだった。ここからはまた上り階段。先達さんが「サンゲ、サンゲ、ロッコンショウジョウ」とかけ声をかけてくださり、みんなも大声で繰り返し急な階段を上りきった。呼吸が整い、いつもより楽に上れた気がした。今日も出会うのは外国人ばかり。「ロッコンショウジョウ」と声を合わせている私たちを物珍しく見ていたり、カメラを向けている人もいた。

11時25分林道と交叉したあたりに出た。ここで昼食休憩。昼食後、山道に戻り少し上つて行くと視界が開け、百間ぐらに到着。紀伊山地の山並みが広がり、今から行く熊野本宮も遙か向こうに見えている。しばし写真タイム。ここからは尾根道になり、緩やかな下り道になる。木立の間を時々大股歩きも取り入れ、

スピードアップして歩いた。途中、葉の裏に文字が書ける「タラヨウの木」を紹介してもらった。自生しているのは珍しいそうだ。右手下に熊野川が見えてきた。もうすぐこの旅が終わる。下界に戻る心の準備をしながら「よく歩いたなあ」と感慨深い。下地橋バス停に到着したのが14時。

ここからバスに乗り込み、熊野本宮大社に向かう。本宮にも「タラヨウの大木」があり、文字が書かれた葉っぱも落ちていた。本殿で全員無事完歩したお礼を述べ、帰路に着いた。松岡さんの駐車場に19時到着した。



大取雲越、小雲取越は二日間で28キロ、17時間歩く。石畳や石段の歩き辛い道を幾つもの峠を越えていく。今回の参加者の平均年齢は74歳（うち80歳代3名）。全員が無事踏破できたのは素晴らしいことだ。日頃の山好会の成果だと思った。

また、先達さんに同行していただいたことで、旅がより深く、より楽しめたと思う。生熊青龍氏、みどりちゃん、宮本淑子（サポートカー）さん、有難うございました。

文責 鈴木安子